

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |                   |            |             |
|---------|-------------------|------------|-------------|
| 事業所番号   | 1292500152        |            |             |
| 法人名     | NPO法人             |            |             |
| 事業所名    | グループホーム花いちもんめ翠    |            |             |
| 所在地     | 千葉県流山市東初石4-245-77 |            |             |
| 自己評価作成日 | 平成26年8月31日        | 評価結果市町村受理日 | 平成26年10月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |                  |  |  |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人ヒューマンネットワーク |  |  |
| 所在地   | 千葉県船橋市丸山2-10-15  |  |  |
| 訪問調査日 | 平成26年9月17日       |  |  |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

日常生活においてプライバシーに配慮しながら見守り介護に力を入れ、必要に応じ手助けし自立した生活と安心した暮らしを支援。看護職の配置により、健康面におけるきめ細やかな観察と異常の早期発見、適切な対応。ホーム内の清潔と整理整頓で日々気持ちよく過せるよう配慮。季節のイベント(外出・外食など)の企画と、家族への手紙などによる報告。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

系列2件目の施設として、バリアフリー、庭園、広いトイレや浴槽、非常階段等設備が充実し利用者に配慮された建物となっている。光が入る明るい室内と清潔で整理された環境づくりに心掛け、施設を持つ特性を活かし、利用者が気持ち良く過ごせる工夫がなされている。職員は利用者一人ひとりの思い意向を汲み取り、希望に沿うサービスを心掛け自立に向けた支援が行われている。管理者は利用者と家族の関係作りの方針を掲げ、施設への訪問を増やす働きかけを行っている。特に、利用者の要望を満たす為にも家族の力が必要であり、家族と職員が両輪となって気持ち良く過ごせる環境を作り、安心して最後の看取りまで出来る事を目標に取り組みが行われている。利用者と家族と一緒に和める施設となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○ 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○ 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○ 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | ○ 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○ 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○ 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |   |

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |   |
|----|-----|--|---|---|---|
|    |     |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容                                 |
| 1  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                           | 開設時より事業所の理念をリビングに掲示し、理念を共有し合い地域の中で自分らしく暮らせるための支援をしている。            | 利用者本位のサービスを方針として管理職・職員は、利用者の思いや意向に配慮した支援を、家族との繋がりを大切に行っている。自治会や行事の機会を捉えて利用者が、地域で暮らせる為の理解を深める取り組みがなされている。                |   |
| 2  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                           | 夏祭り及び自治会・学校からのふれ合い給食会に誘われ、出席している。                                 | 利用者の毎日の散歩や買い物により地域との関わりを深め、関心を持ってもらう取り組みが行われている。認知症、車椅子の人がレストランで食事をする普通の生活の中で、地域の方と触れ合い会話の場が出来ている。                      | 地域の方にも、認知症や食事と噛むことの大切さ等の講演の機会を持ち、理解を深める取り組みが望まれる。 |
| 3  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                         | 年2回のクリーン作戦に参加し、近隣の方と共にゴミ拾いを行っている。                                 |   |   |
| 4  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている      | 会議の中で評価の結果を報告し、意見の交換、提案等によりサービス向上に努めている。                          | 運営推進会議は、系列施設と合同で当町内会長も参加して行われている。実施出来る事を提案して協議を重ね、次年度の目標としている。委員に利用者の理解を深める講座等の企画が持たれている。                               |   |
| 5  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                | 市担当者と常に連絡、提携を取り、情報の共有に努め、協力関係を保っている。                              | 市の担当者とは、運営推進会や日常の報告等のやり取りの中で協力関係が保たれている。グループホーム連絡会にも市の担当者が参加し、依頼・伝達事項や情報交換を通して連携がなされている。                                |   |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は原則的にしないケアに取り組んでいる。   | 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束や虐待の研修に参加し、何処までが拘束なのか理解を深めてサービスに活かしている。プライバシーに配慮した声掛けを行い、注意する事を「何でもノート」に記入・回覧して利用者に優しい対応を心掛けている。 |   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている      | 研修会に参加する機会を持ち、介護者は常に利用者の立場に立って介護するよう心がけ、「虐待は絶対にあってはならない介護」に努めている。 |   |   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |   |
|----|-----|--|--|--|---|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 内外部研修会に参加する機会を持ち、職員一人一人が理解し活用できるよう取り組んでいる。                 |  |   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約内容や運営規定及び重要事項説明書の説明を十分に行い理解・納得を図ったうえ行っている。               |  |   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 意見、不満、苦情に対して担当者が対応、職員間で内容の確認をし、前向きに対応して運営に反映させている。         | 家族の施設訪問が多くその都度管理者は、利用者の状況について良く話し合い、要望を聞いて活かしている。運営推進会議や家族会の機会を設けて意見や要望を聞き、運営に反映している。              | 事業所として家族会を、日時や内容を工夫して参加を促し、家族同志の触れ合いや管理職・職員とじっくり話しが出来る場として運営する事が望まれる。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 職員会議や個人のヒアリング時に意見・提案等の発言を促し、出された意見等については可能な限り反映させる努力をしている。 | 理事長、管理職は全職員の面接によるヒアリングを定期的実施している。利用者、家族、職員同志、上司等に対して感じている事や思いを具体的に聞いて把握に努め、気持ち良く仕事が出来る環境作りが行われている。 |   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 職員の意見・提案を尊重し、自己啓発できるよう努めている。                               |  |   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 必要な外部研修を受講できるシフトを組み、内部研修は年間を通して全員が学べる機会を作っている。             |  |   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者と情報交換など年数回実施、切磋琢磨し合いサービスの質向上に努めている。                     |  |   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の想いや願い、不安になっていること等がある場合、表現できるよう時間をかけてゆっくり聴き、受けとめるよう配慮している。     |  |                   |
| 16 |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 家族の立場になってよく聴く、しっかり受けとめるよう努力している。                                 |  |                   |
| 17 |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | サービスの内容を理解し、サービスの選択肢から必要としている支援を見極められるよう、極め細やかな対応に務めている。         |  |                   |
| 18 |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 職員としての自覚をもちながら、利用者にできることは自立できるよう支え合って生活している。                     |  |                   |
| 19 |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 家族毎に本人に対する意識の差が感じられる場合もあるが、良い関係を構築でき、ホームとの信頼関係が築けるよう努力をしている。     |  |                   |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 可能な利用者には友人・知人の訪問を歓迎したり、電話や手紙の交流を支援している。                          | 管理職は、訪問し易い施設を心掛け、近所の人や馴染みの人が利用者と接する支援を行っている。利用者の希望を聞いて、図書館、スーパーでの買い物、家族への電話や手紙の支援を行って関係が保たれる取り組みがなされている。 |                   |
| 21 |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 常に利用者の“気持ちよい生活”を心がけて、孤立・孤独に配慮し、色々な不満につながらないよう利用者同士の関わり合いを支援している。 |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|--|--|--|--|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 22 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービス利用の終了後は、新たな(又は以前の)ケアマネに移行するため、関係を保とうとしていても自然消滅していくことがある。                   |  |  |
| 23 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 一人ひとりの思い・希望・意向など様々で又複雑であることを踏まえて、日々の関わりの中から理解し把握しようと務め、困難なときは本人の気持ちを優先に対応している。 | 全利用者をつぶさに観察し孤立を招かないように、利用者の思いや意向の把握に努めている。管理者は職員の気づきが記載された日誌を細かい点まで把握し、朝夕の申し送り時に必ず立ち会い、情報共有と迅速な対応を図っている。 |  |
| 24 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 本人の情報把握を職員の集まりで共通認識している。   |  |  |
| 25 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 職員間での申し送りをを行い、利用者の生活全般を総合的に把握するよう努めている。  |  |  |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員間で定期的(又は必要時)に介護計画を立て、家族や関係者は必要時参加し意見等を反映している。                                | 常勤職員によるモニタリングを毎月実施している。利用者の気持ちを大切に、対応困難な点でも職員間で検討し計画につなげている。管理者は家族との面談の機会を設け、意見を次のケアプランに反映させることに力を入れている  | 訪問できない家族に対しても、介護計画に利用者・家族の思いや要望を取り入れ、話し合いの機会を増やす努力が望まれる。 |
| 27 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 介護計画が「絵に描いた餅」にならないよう記録と実践・結果・見直しに務め、気づきや工夫を共有し合い実践している。                        |  |  |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人・家族の要望等に柔軟に対応し、受け入れ可能な事柄には前向きに対処するよう努めている。                                   |  |  |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |  |
|----|------|---|---|---|--|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の関連機関との連携・協力は少しずつ支援関係が築かれ、根付いてきている。             |   |  |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | ホームの連携医療機関及び本人のかかりつけ医で医療が受けられるよう支援している。           | 連携医療機関・かかりつけ医へは出来る限り家族が同行し、利用者との触れ合いと状態の把握を深める支援に力を入れている。受診後の家族からの報告は「診療報告書」にまとめられ「何でもノート」で職員間の情報共有が図られている。 |  |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 看護職のスタッフにより日常の健康観察を行い、必要時医療活用の支援をしている。            |   |  |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した時は、主治医や病院関係者との情報をもとに、相談し合える良好な関係をつくれるよう努めている。 |   |  |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 重度化した場合や終末期ケアの指針を作成し、家族に方針の共有を図れるよう、必要時説明している。    | 家族と職員が両輪になりチームで看取りまでの介護支援をしていく事を、管理者は大切にしている。契約時には「重度化した場合の対応」や「看取りケア指針」を説明し、入居中に重度化した場合はその都度家族と話し合いを行っている。 | 家族と看取りについて、個別の話し合いを重ねていくことが望まれる。看取りについての体験研修や具体的な対応策のマニュアル作成等が今後の課題である。                                  |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 心肺蘇生法や応急処置法等、順次全員の職員に訓練を行えるよう計画を立てている。            |   |  |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 地域住民参加の「緊急時連絡網」を作成し、災害時における協力体制が図れるよう努めている。       | 消防署立会による消火器使用等の火災訓練や、夜間火災想定避難訓練では、具体的な避難場所への誘導等計画に基づき実施されている。確実に職員を召集できるように、事業所の近くに居住する職員中心の緊急連絡網が整備されている。  | 地域住民一緒に訓練や避難誘導だけでなく、災害時の一時避難所の役割についても、運営推進会議を通して自治会と具体的に話し合い地域との協力体制を強化していく事が望まれる。また備蓄品の内容および量の再検討も課題である |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | プライバシーの保護や尊厳の保持に留意し、言葉かけや対応に配慮している。                              | 大声で断定的な言葉づかいを避け、トイレ・風呂の利用時には周りの人に配慮し、羞恥心を抱くことのないような声かけに努めている。利用者のペースに合わせてゆっくり食事をとれる配慮など、一人ひとりの行動を尊重した対応が図られている。 |                   |
| 37 |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 利用者の状態に合わせた対応を心がけている。  |   |                   |
| 38 |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人が選んで日々を過せるように、本人の希望を優先している。                                    |   |                   |
| 39 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 希望を出せる場合は、本人の望みに応えるように務めている。                                     |   |                   |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 食事を楽しむことができるよう声かけ、見守りしながら一緒に準備や食事作り・片付けをしている。                    | 「ゆっくり」をモットーに食べたい時に食べ、食べたくない時は栄養分を考え少量の食事を勧めるなどの食事支援が図られている。車いす対応のレストランでの外食や自治会の「ふれあい給食会」で、近所の方と一緒に食事を楽しんでいる。    |                   |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 献立や調理方法、盛り付け、食器等の工夫で食欲をそそるようにし、頻繁に水分摂取を無理なく促す。                   |   |                   |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 食後および就寝前、口腔内の清潔を利用者の状態に応じて支援している。また、必要な利用者に歯科往診を受け入れ口腔ケアを実施している。 |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|------|--|--|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                             | 本人の状態や力に合わせて、気持ちのよい排泄支援を心がけている。  | 排泄チェック表を活用し、一人ひとりのタイミングでの声掛けを行っている。可能な限りトイレまで自分で歩いて座って衣服着脱する等、排泄の自立につながる取り組みが図られ、職員は利用者の安全のための見守り支援に努めている。                |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる   | 排泄の確認は困難な場合もあるが、水分量や食事内容を工夫し、散歩など便秘対策に取り組んでいる。   |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                       | 希望を出せる場合は、本人の希望に応えるよう支援している。出せない場合は職員の都合で曜日を決めている。   | 2～3日に一度、利用者は好きな時間にいつでも自由に入浴を楽しむことができる取り組みが行われている。利用者の希望を取り入れ応えられる範囲で、同性介助などの対応が行われている。温度・湯量に注意し頻りに声かけをし、必ず近くで見守ることに努めている。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している  | 安眠や休息の支援を本人のペースに合わせてながら行なっている。   |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている   | 服薬管理に関しては慎重に確認し合い、ミスのないよう留意している。   |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                            | 趣味や楽しみごとができる力のある利用者には“昔取った杵柄”の力を引き出す支援に務めている。  |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 気候・天候に合わせて適宜外出できるよう支援している。また、家族とともに外出の機会は歩行できる場合は可能。困難な場合もあるため、季節ごとの行事として出かけられる機会づくりを支援している。 | 毎朝ほとんどの利用者は、複数の職員と一緒に近くの公園などへ散歩に行き気分転換を図っている。午後は近隣スーパーへの買い物、車で図書館や周辺の公園散策等、利用者の希望に沿った外出支援が行われている。                         |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 必要に応じてお金を持って買い物やお参りに出かけられるよう支援している。                           |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 希望が出せる等、その力がある利用者は支援している。                                     |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の場所を明るく、清潔で温かく居心地のよい空間として工夫している。                            | オープンキッチンの明るいリビングには、音楽が流れ落ち着いた空間が確保されている。利用者がくつろぐソファの位置にも、圧迫感を感じさせないための配慮が窺える。家族の方々による手作り庭園の季節の花が、利用者の気持ちを和らげている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | リビングやその他の場所に椅子を置き、気の合った利用者同士やその時の気分を大事にし、くつろげるような居場所の工夫をしている。 |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 居室は利用者の力に合わせて、馴染みの小家具や小物を置き居心地よく過ごせるよう工夫している。                 | 遮光カーテン・防犯ガラスの居室には介護用電動ベッドが備え付けられ、使い慣れた家具・写真などが持ち込まれている。「居室管理チェック表」を活用し、布団干しやシーツ洗濯を定期的実施し清潔な居室支援が行われている。          |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 段差のある場所には手すりを取り付ける等安全確保に配慮し、安全かつ自立した生活が送れるよう努力支援している。         |  |                   |